

到達目標	評価基準				
	S 到達目標を極めて高い水準で達成	A 到達目標を高い水準で達成	B 到達目標を標準的な水準で達成	C 到達目標を最低限の水準で達成	D 到達目標を未達成
人間工学のねらいや考え方を説明できる。	『人間工学とは何か』『人間工学に必要な心身機能』『人間工学の対象範囲』『必要性』『社会的背景』について全て説明できる。	『人間工学とは何か』『人間工学に必要な心身機能』『人間工学の対象範囲』『必要性』『社会的背景』について8割程度は説明できる。	『人間工学とは何か』『人間工学に必要な心身機能』『人間工学の対象範囲』『必要性』『社会的背景』について7割程度は説明できる。	『人間工学とは何か』『人間工学に必要な心身機能』『人間工学の対象範囲』『必要性』『社会的背景』について6割程度は説明できる。	『人間工学とは何か』『人間工学に必要な心身機能』『人間工学の対象範囲』『必要性』『社会的背景』について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。
人間工学の考え方にに基づき、課題発見能力を身に付け、各種課題とその理由を説明できる。	人々の生活の中にある様々なモノに対して、人間の特性を照らし、モノ側の課題を他者と協力して多く発見することができ、明確かつ確にその理由を説明することができる。	人々の生活の中にある様々なモノに対して、人間の特性を照らし、モノ側の課題を他者と協力して多く発見することができ、明確にその理由を説明することができる。	人々の生活の中にある様々なモノに対して、人間の特性を照らし、モノ側の課題を他者と協力して多く発見することができ、その理由を説明することができる。	人々の生活の中にある様々なモノに対して、人間の特性を照らし、モノ側の課題を他者と協力していくつかが発見することができ、理由をある程度説明することができる。	人々の生活の中にある様々なモノに対して、人間の特性を照らし、モノ側の課題を発見することができない。
人間工学の考え方にに基づき、人間の生理心理機能を考慮した製品設計について説明できる。	製品設計に対して、人間の生理心理機能を十分に考慮して、他者と協力して適切な設計を考えて説明することができる。	製品設計に対して、人間の生理心理機能を考慮して、他者と協力して適切な設計を考えて説明することができる。	製品設計に対して、人間の生理心理機能を考慮して、他者と協力して設計を考えて説明することができる。	製品設計に対して、人間の生理心理機能をある程度考慮して、他者と協力して設計を考えて説明することができる。	人間の生理心理機能を考慮した製品設計を説明することができない。
人間中心設計思想に基づき、人間中心設計プロセスを説明できる。	人間中心設計プロセスの各項目の必要性、考え方、手法について全て説明ができる。	人間中心設計プロセスの各項目の必要性、考え方、手法について8割程度は説明できる。	人間中心設計プロセスの各項目の必要性、考え方、手法について7割程度は説明できる。	人間中心設計プロセスの各項目の必要性、考え方、手法について6割程度は説明できる。	人間中心設計プロセスの各項目の必要性、考え方、手法について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。
人間工学が果たすべき役割や今後の展望について説明できる。	社会的背景を十分に考慮して、人間工学が果たすべき役割を十分に理解して、今後の展望について明確に説明できる。	社会的背景を考慮して、人間工学が果たすべき役割を十分に理解して、今後の展望について明確に説明できる。	社会的背景を考慮して、人間工学が果たすべき役割を理解して、今後の展望について明確に説明できる。	社会的背景を考慮して、人間工学が果たすべき役割を理解して、今後の展望について説明できる。	人間工学が果たすべき役割や今後の展望について説明することができない。